20023

亜急性 A 型大動脈解離に対して上行大動脈 Zone0 単独 TEVAR を施行した 1 例

右冠動脈完全閉塞を伴う急性大動脈解離 Stanford A の診断で救急搬送された 84 歳男性。開胸した際には血圧 60 台まで低下し、有効な心拍出が保てていない状態であった。人工心肺を装着すると血圧を維持できたため、右腋窩動脈から大伏在静脈を用いて右冠動脈へ冠動脈バイパス術 1 枝のみを行うことで閉胸した。大動脈解離については降圧療法を行い第 22 病日に独歩自宅退院となった。その後 2 ヶ月間で開存した偽腔が 5mm、上行大動脈が 50mm まで拡大したため Zone0 単独 TEVAR を c-TAG を用いて行った。術後は第 5 病日に独歩自宅退院、10 ヶ月経過した現在も元気に外来通院されている。胸部ステントグラフト内挿術は本邦で 2008 年に承認されたが、上行大動脈単独の TEVAR は 1995 年から 2017 年までに世界で 118 例と報告はわずかである。亜急性 A 型大動脈解離に対して上行大動脈 Zone0 単独 TEVAR を施行した今回の経験から腕頭動脈、左冠動脈主幹部閉塞を回避する為の注意点を報告する。